

平成29年8月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年4月7日

上場会社名 株式会社AFC-HDアムスライフサイエンス
 コード番号 2927 URL <http://www.ams-life.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 浅山雄彦

問合せ先責任者 (役職名) 社長室部長 (氏名) 土屋昭弘

TEL 054-281-5238

四半期報告書提出予定日 平成29年4月14日 配当支払開始予定日 平成29年5月26日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年8月期第2四半期の連結業績(平成28年9月1日～平成29年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年8月期第2四半期	7,330	1.2	455	14.9	441	11.6	228	32.6
28年8月期第2四半期	7,417	9.4	535	51.9	499	52.3	339	58.5

(注) 包括利益 29年8月期第2四半期 237百万円 (21.3%) 28年8月期第2四半期 301百万円 (31.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年8月期第2四半期	18.88	
28年8月期第2四半期	28.08	27.99

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年8月期第2四半期	16,192	7,488	46.3
28年8月期	16,343	7,372	45.1

(参考) 自己資本 29年8月期第2四半期 7,488百万円 28年8月期 7,372百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年8月期		5.00		10.00	15.00
29年8月期		5.00			
29年8月期(予想)				5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年8月期の連結業績予想(平成28年9月1日～平成29年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,000	2.5	1,050	17.9	1,000	23.1	500	2.1	41.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年8月期2Q	12,189,720 株	28年8月期	12,189,720 株
期末自己株式数	29年8月期2Q	80,969 株	28年8月期	80,903 株
期中平均株式数(四半期累計)	29年8月期2Q	12,108,805 株	28年8月期2Q	12,087,501 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信の添付資料4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(平成28年9月1日～平成29年2月28日)におけるわが国経済は、雇用・所得環境において改善が見られるなど緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、英国のEU離脱や米国の金融政策、アジア新興国の動向など世界経済の不確実性は強く、国内経済を下押しする懸念要因となっております。

当社グループが属する健康食品市場は、高齢者人口の増加と消費者の健康維持・増進、美容・アンチエイジングに対する意識の高さから、引き続き堅調に推移すると思われまます。また近年、スーパーフードやオーガニックなど自然由来の食品の需要が増加傾向にあり、消費者の志向が多様化しております。

このような状況の下、当社グループは、青汁や酵素・酵母関連などの商品が伸長したOEM部門ほか、通信販売部門・海外部門が増収となったものの、インバウンド需要の減少により卸販売部門・店舗販売部門が苦戦したことや、不採算品目の漢方製剤の販売を控えた影響などにより、連結売上高は7,330百万円(前年同期比1.2%減)となりました。損益面については報酬体系の見直しにより人件費が増加したことや、共同企画などの広告宣伝費が増加した影響により、営業利益は455百万円(前年同期比14.9%減)、経常利益は441百万円(前年同期比11.6%減)となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は役員退職慰労金などの特別損失を計上した影響も加わり、228百万円(前年同期比32.6%減)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

①ヘルスケア事業

・OEM部門

当社グループの基幹事業である当部門は、青汁や酵素・酵母関連などの商品が伸長したことに加え、ドラッグストアにおける定番商品の受注が好調に推移し、売上高は前年同期を上回りました。また、大ロット商品の増加により生産の効率化が図られ、利益率が向上いたしました。

・海外部門

アジア地域を主な取引先とする当部門は、ベトナムのOEM顧客において業務拡大による美容商品の受注が伸長いたしました。また、シンガポールのOEM顧客において販売網の拡大による受注増などがあり、当部門の売上高は前年同期を上回る結果となりました。

・通信販売部門

引き続き、ネット受注を中心に『葉酸サプリ』『マタニティクリーム』などが堅調に推移いたしました。また、電話受注において静岡県内のチェーンドラッグストアとの共同企画による広告展開が奏功し受注が増加いたしました。その結果、当部門の売上高は前年同期を上回りました。

3月より『葉酸サプリ』を始めとする妊活層をターゲットとした商品群を新ブランド「mitete(みてて)」として展開し、商品群の統一感とコンセプトの明確化によるブランドの確立と優位性を高めてまいります。

・卸販売部門

チェーンドラッグストアへ専売商品を企画提案するなど主要販路への営業活動に注力いたしました。また、ネット販売で好調の『葉酸サプリ』について、乳幼児用品を販売する大型チェーン店3社へ卸販売を開始いたしました。しかしながら、前年同期に好調であったインバウンド向け商品ならびに、中国などへ販売展開を行う企業からの受注が減少し、当部門の売上高は前年同期を下回りました。

・店舗販売部門

当部門は、“百貨店における店舗販売”“百貨店外商部との協同販売”“百貨店とタイアップした通信販売”の3つを主要な販路としております。

引き続き、百貨店外商部、店舗において頒布会を積極的に提案し、優良顧客の囲い込みによる収益の拡大と安定化に努めました。また、スムージーや青汁などの食品寄り商品が好調に推移いたしました。しかしながら、前年同期に好調であったインバウンド需要の減少、ならびに店舗数の減少による減収が影響し、売上高は前年同期を下回る結果となりました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高6,729百万円(前年同期比0.4%減)、営業利益723百万円(前年同期比9.0%減)(全社費用調整前)となりました。

②医薬品事業

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、ドラッグストアで購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医療用医薬品事業は、新たな取扱製品を投入したことに加え、主力の製造承認を取得した医療用漢方製剤について、医師、薬剤師及び医薬品卸の営業担当者に対して、品質・安全性の確保に対する取り組みのほか、他社製剤と比較しても効能効果の同等性はもちろんのこと、患者さんの経済的負担（医療費の自己負担）が小さいことなどを説明してきました。

また、一般用医薬品事業については、昨年1月より㈱エーエフシーの通販事業において本草製薬㈱が製造する漢方薬の販売を開始し、一定の成果を上げたほか、昨年6月よりチェーンドラッグストアと販売提携し、広告投入による拡販が奏功いたしました。

しかしながら、本草製薬㈱において不採算品目の漢方製剤の販売を控えたことが影響し、医薬品事業全体では、売上高が601百万円（前年同期比8.6%減）、営業損失5百万円（前年同期比は3百万円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①流動資産

当第2四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ164百万円減少し、8,067百万円となりました。この減少要因は主として、商品及び製品が97百万円、流動資産のその他が93百万円、原材料及び貯蔵品が90百万円増加した反面、役員退職慰労金の支払などにより現金及び預金が454百万円減少したことによるものであります。

②固定資産

当第2四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ13百万円増加し、8,124百万円となりました。この増加要因は主として、投資有価証券の売却などにより投資その他の資産のその他が21百万円減少した反面、工場機械の取得などにより有形固定資産のその他（純額）が47百万円増加したことによるものであります。

③流動負債

当第2四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,118百万円増加し、7,119百万円となりました。この増加要因は主として、返済期限が1年以内に到来する長期借入金から固定負債から振替られたことにより、短期借入金が増加したことによるものであります。

④固定負債

当第2四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,386百万円減少し、1,583百万円となりました。この減少要因は主として、返済期限が1年以内に到来する長期借入金が増加したことから流動負債へ振替られたことなどにより長期借入金が増加したことに加え、役員退職慰労引当金が213百万円減少したことによるものであります。

⑤純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ116百万円増加し、7,488百万円となりました。この増加要因は主として、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ472百万円減少し、2,767百万円となりました。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果使用した資金は208百万円（前年同期411百万円の収入）となりました。

これは主として、税金等調整前四半期純利益267百万円、減価償却費186百万円などにより資金が増加した反面、役員退職慰労金の支払額430百万円、たな卸資産の増加額189百万円などにより資金が減少したことによるものであります。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は166百万円（前年同期252百万円の支出）となりました。

これは主として、投資有価証券の売却による収入82百万円により資金が増加した反面、有形及び無形固定資産の取得による支出199百万円、投資有価証券の取得による支出31百万円などにより資金が減少したものであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は97百万円（前年同期420百万円の支出）となりました。

これは主として、長期借入れによる収入300百万円などにより資金が増加した反面、長期借入金の返済による支出260百万円、配当金の支払額120百万円などにより資金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成28年12月16日の「役員退職慰労金の贈呈に伴う特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当第2四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,722,581	3,268,095
受取手形及び売掛金	1,895,580	1,906,804
商品及び製品	872,300	969,679
仕掛品	692,871	694,140
原材料及び貯蔵品	820,134	910,901
その他	239,489	333,437
貸倒引当金	△10,760	△15,693
流動資産合計	8,232,198	8,067,364
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,689,172	2,666,028
土地	4,243,229	4,243,229
その他(純額)	677,044	724,450
有形固定資産合計	7,609,446	7,633,708
無形固定資産		
のれん	4,081	3,571
その他	90,900	101,602
無形固定資産合計	94,981	105,173
投資その他の資産		
その他	470,207	448,870
貸倒引当金	△63,119	△63,072
投資その他の資産合計	407,088	385,797
固定資産合計	8,111,516	8,124,680
資産合計	16,343,714	16,192,044
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,821,926	1,726,983
短期借入金	2,928,393	4,138,835
未払法人税等	135,658	89,803
賞与引当金	109,200	168,574
ポイント引当金	11,924	15,146
その他	994,186	980,530
流動負債合計	6,001,288	7,119,873
固定負債		
社債	156,000	108,000
長期借入金	1,776,594	678,058
役員退職慰労引当金	381,433	168,095
退職給付に係る負債	239,127	257,708
負ののれん	2,816	2,534
その他	413,821	368,934
固定負債合計	2,969,792	1,583,330
負債合計	8,971,081	8,703,203

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年2月28日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,405,498	1,405,498
資本剰余金	1,469,539	1,469,539
利益剰余金	4,572,563	4,680,088
自己株式	△59,229	△59,284
株主資本合計	7,388,371	7,495,842
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△15,738	△7,001
その他の包括利益累計額合計	△15,738	△7,001
純資産合計	7,372,633	7,488,840
負債純資産合計	16,343,714	16,192,044

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年2月28日)
売上高	7,417,482	7,330,577
売上原価	5,164,498	5,087,181
売上総利益	2,252,983	2,243,395
販売費及び一般管理費	1,717,269	1,787,517
営業利益	535,714	455,878
営業外収益		
受取利息	222	35
受取配当金	535	1,393
受取賃貸料	9,395	9,076
負ののれん償却額	281	281
損害賠償金収入	—	4,377
助成金収入	—	4,860
その他	5,259	4,294
営業外収益合計	15,695	24,319
営業外費用		
支払利息	41,881	33,385
その他	9,910	5,253
営業外費用合計	51,792	38,638
経常利益	499,617	441,559
特別利益		
投資有価証券売却益	2,703	19,496
ポイント引当金戻入額	14,584	—
新株予約権戻入益	539	—
補助金収入	—	24,000
債務免除益	—	12,675
特別利益合計	17,826	56,171
特別損失		
固定資産除却損	12,157	5,268
投資有価証券売却損	1,377	—
役員退職慰労金	—	224,475
特別損失合計	13,535	229,743
税金等調整前四半期純利益	503,908	267,987
法人税、住民税及び事業税	144,760	70,944
法人税等調整額	23,427	△31,569
法人税等合計	168,188	39,374
四半期純利益	335,719	228,613
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,716	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	339,436	228,613

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年2月28日)
四半期純利益	335,719	228,613
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△34,297	8,736
その他の包括利益合計	△34,297	8,736
四半期包括利益	301,422	237,350
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	305,139	237,350
非支配株主に係る四半期包括利益	△3,716	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年9月1日 至平成28年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年9月1日 至平成29年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	503,908	267,987
減価償却費	189,014	186,780
のれん償却額	228	228
賞与引当金の増減額(△は減少)	15,500	59,374
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△37,968	3,222
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	7,683	△6,863
受取利息及び受取配当金	△758	△1,429
支払利息	41,881	33,385
固定資産除却損	12,157	5,268
補助金収入	—	△24,000
役員退職慰労金	—	224,475
売上債権の増減額(△は増加)	377,353	△12,523
たな卸資産の増減額(△は増加)	55,604	△189,414
仕入債務の増減額(△は減少)	△596,525	△94,943
未払消費税等の増減額(△は減少)	△36,829	△15,385
その他	150,361	△86,044
小計	681,612	350,118
利息及び配当金の受取額	734	1,431
利息の支払額	△42,349	△33,291
補助金の受取額	—	24,000
役員退職慰労金の支払額	—	△430,950
法人税等の支払額	△228,462	△119,474
営業活動によるキャッシュ・フロー	411,534	△208,166
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△190,829	△199,235
投資有価証券の取得による支出	△107,388	△31,816
投資有価証券の売却による収入	61,816	82,490
その他	△16,460	△18,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△252,861	△166,561
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	72,858
長期借入れによる収入	—	300,000
長期借入金の返済による支出	△266,808	△260,952
社債の発行による収入	300,000	—
社債の償還による支出	△350,000	△48,000
配当金の支払額	△119,844	△120,743
その他	16,466	△40,921
財務活動によるキャッシュ・フロー	△420,186	△97,758
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△261,513	△472,486
現金及び現金同等物の期首残高	3,591,864	3,239,581
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,330,351	2,767,095

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成27年9月1日至平成28年2月29日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	6,759,590	657,892	7,417,482
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	6,759,590	657,892	7,417,482
セグメント利益又は損失(△)	794,282	△3,297	790,985

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	790,985
全社費用(注)	△255,270
四半期連結損益計算書の営業利益	535,714

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成28年9月1日 至 平成29年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	6,729,499	601,077	7,330,577
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	6,729,499	601,077	7,330,577
セグメント利益又は損失(△)	723,148	△5,581	717,567

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	717,567
全社費用(注)	△261,688
四半期連結損益計算書の営業利益	455,878

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。